

令和2年4月八戸市教育委員会定例会会議録

開催日時 令和2年4月24日(金) 午後3時

場 所 市庁本館3階 議会第1委員会室

出席者	教育長	伊藤博章
	教育委員	武輪節子
	教育委員	大庭文武
	教育委員	築瀬眞知雄
	教育委員	油川育子

事務局出席職員	教育部長	石亀純悦
	教育部次長兼教育総務課長	橋本淳一
	教育部次長	中村雅臣
	学校教育課長	大館秀光
	教育指導課長	南館義孝
	社会教育課長	館合裕之
	是川縄文館副館長	松橋広美
	総合教育センター所長	竹花和人
	こども支援センター所長	大坂吉弘
	図書館長	田茂隆一
	博物館長	小保内裕之
	西地区給食センター所長	梶山優
	是川縄文館参事	渡則子

開 会

(伊藤教育長)

定刻となりましたので、令和2年4月教育委員会定例会を開会します。

本日の議事録署名は、油川委員を指定します。

それでは、はじめに私から、主な会議・行事等について説明いたします。

主な会議・行事等

(伊藤教育長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの説明につきまして、ご質問などありましたらお願いします。

[質疑なし]

これより議事に入ります。本日提出されております議案を審議します。

はじめに、議案第16号「八戸市社会教育委員の委嘱について」事務局から説明をお願いします。

議案第16号 八戸市社会教育委員の委嘱について

(館合社会教育課長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問などがありましたらお願いいたします。

[質疑なし]

それでは、議案第16号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

[異議なし]

ご異議がありませんので、議案第16号を原案のとおり決定いたします。

次に、議案第17号「八戸市文化財審議委員の委嘱について」事務局からの説明をお願いします。

議案第17号 八戸市文化財審議委員の委嘱について

(館合社会教育課長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問などがありましたらお願いいたします。

[質疑なし]

それでは、議案第17号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

[異議なし]

ご異議がありませんので、議案第 17 号を原案のとおり決定いたします。

次に、議案第 18 号「八戸市立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例の一部を改正する条例の制定について」事務局からの説明をお願いします。

議案第 18 号 八戸市立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

(大館学校教育課長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問などがありましたらお願いいたします。

[質疑なし]

それでは、議案第 18 号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

[異議なし]

ご異議がありませんので、議案第 18 号を原案のとおり決定いたします。

以上で、議案の審議は終わりました。

次に報告事項にまいります。

はじめに、「令和元年度第 4 四半期の業務報告について」は、事前に委員の皆さんから質問をいただいております。

【令和元年度第 4 四半期の業務報告について (質疑応答)】

(伊藤教育長)

まずは、9 ページの「成人式準備協力会」について、武輪委員からお願いします。

(武輪委員)

成人式準備協力会については、以前にもお話したことがあると思いますが、これまで準備協力会のメンバーにおいては、活動の内容や記念品の選定など、いろいろと検討していただきました。メンバーの皆さん、そのご友人やご家族の感想、意見、反応や声を次の成人式に生かすためにも、そういう意見や感想を聞く機会を設けてはいかがでしょうか。また、そういう機会を設けることができない場合には、メールや郵送等で提出していただくことも検討してはと感じています。

(館合社会教育課長)

ありがとうございます。新成人を中心とした成人式準備協力会のメンバーの皆さんは、インスタグラムのページを開設しており、その中にある程度のフォロワーがいるようです。昨日見たところでは、特にご意見というものは入ってきておりませんでした。成人式当日のパンフレットにも、インスタグラムへのア

クセス方法が掲載されていましたが、積極的に呼びかけているものではありませんでしたので、次回以降はInstagramに限らず、意見を集める機会を設けたいと思っております。

(伊藤教育長)

関連質問ございませんか。

[なし]

それでは次に入ります。次は13ページの「2. 教科等研究委員」及び「6. 教員国内・海外研修」について、武輪委員さんからお願いいたします。

(武輪委員)

私は1月下旬に開催されました、教科等研究委員及び教員国内・海外研修の研究発表会に出席させていただきました。毎回拝聴していますが、先生方のそれぞれの研究、研修に関して、非常に成果が出ていると思います。是非、その成果を市内の先生方にも共有していただき、それぞれに活用されてほしいと強く要望いたします。

(竹花総合教育センター所長)

武輪委員にはご出席いただきまして、ありがとうございます。今、委員さんから要望があったとおり、私たちも活用していただきたいというふうに思っており、小学校、中学校の各教科等研究会に対しても、夏期講習会や冬期講習会等での発表の場を設けていただくようお願いしております。しかし、今年度については、小教研、中教研どちらも夏以降の講習会を見合わせる方向であると伺っておりますので、残念ながら今年度につきましては、その辺の活用が難しいと考えています。

(伊藤教育長)

国内・海外研修については、今年度どうする予定でしたか。

(竹花総合教育センター所長)

現在、受入先となります筑波大学の附属小中学校の方に、受入れが可能かどうか問合せをしております。また、東京で教員をされている青森県出身者の集まりで「陸奥海会」という団体があり、そちらの方とも一緒に集まって研修を行ってございましたので、関係団体含め相談中でございました。その他にも小学校、中学校の校長会とも調整を行っており、連休明けぐらいには意見等をまとめて、教育委員会内でも相談しながら決定したいと考えております。

(伊藤教育長)

今般のコロナウイルスの問題もありますし、相手のあることですので、よく話をしながら進めてほしいと思います。昨年度からだったと思いますが、校長会から、公費がつかない場合でも、ぜひこの研修を継続してほしいという声をいただきました。一旦は頓挫しそうなった事業ですが、現場の校長先生方からも、伝統ある研修ですので、1か月ではなくても、2週間でもいいので行かせてほしいということをおっしゃ

れました。私もこの研究発表会には、教育長就任以来行かせていただいておりますが、武輪委員がお話ししたように内容の濃い発表会ですので、担当課においては、ぜひ周知と活用をしていただきたいと思います。

ただ、発表会が2月の開催になりますので、学校の忙しい時期と重なり、なかなか来られないという悩みもあるのですが、この教科等研究委員の研究発表の内容、それから国内・海外研修の内容を、1年遅れでも全然問題ないと思いますので、発表や共有する機会を検討していただければと思います。誰でも見られるように映像にしてネットに載せたりはしていましたか。

(竹花総合教育センター所長)

ネット配信については、確認しないとお答えできませんが、映像に撮っているものについての貸出し等は行っていたかと思います。

(伊藤教育長)

ぜひ活用していただければと思います。

関連の質問はございませんか。

[なし]

それでは次に15ページ「教育相談・適応指導教室事業」について、武輪委員さんからお願いします。

(武輪委員)

こちらの記載の中で、「3月の相談事業の一部休止により件数が少なかった」との記載があるのですが、今の新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、いろいろな事業が中止になっているかと思います。長引く学校の休校という状況の中で、子どもや保護者の方々から、これまでと違った問題であったり、悩みが発生しているのではないかなと危惧しております。人との接触を控えるという中で、今現在の相談体制がどのように行われているのかお聞きしたいと思います。主な事業予定の13ページには、臨床心理士によるカウンセリング開始についても記載がありますので、電話相談を主としているのかも含め、お聞かせ願います。

(大坂こども支援センター所長)

こども支援センターの相談体制についてですが、3月の休校措置を受けまして、原則、電話での相談体制に変更いたしました。ただし、お子様の状態等によっては、面談の必要性の高い場合もございますので、来所相談も受け付けております。その場合は、マスクの着用や相談者と相談員との距離を取ることを注意しております。また、来所者同士の接触機会を減らすように、車での待機をお願いしたり、始めから相談時間を決めるなどといった対応もっております。

継続的に相談を受けている方につきましては、相談員の方からお子さんの様子や、進級・進学に向けた対応について、電話で確認等を行いました。不登校のお子さんの場合で、例えば中学校3年生であれば、「卒業式どうしましたか」、「どういう感じでやりましたか」、あるいは「高校は行きましたか」といった内容の確認を行っています。

事業予定に記載されています臨床心理士についてですが、臨床心理士が相談を受ける場合は、かなり緊急性が高い場合になってきますが、中には、毎週のように相談を受けているお子さんもおられますが、相談をしていく中で、相談回数を毎週から、2週間に1回、3週間に1回にするなどと調整して行っております。こども支援センターへの相談内容は、不登校や発達関係がほとんどになりますが、現在は、新規で来られる人よりも、継続的に相談に来られている人が多い状態でしたので、休校に伴う新規の相談は特にはきておりません。

(武輪委員)

ありがとうございます。休校という状態から抜け出して、学校再開になった場合においても、子どもたちがいろいろな面で変わってくると思いますので、その辺に対しても体制を整えていただければと思います。よろしく願いいたします。

(伊藤教育長)

関連質問ございませんか。

[なし]

そのほか、委員の皆さんから質問等ありますでしょうか。

[なし]

【令和2年度第1四半期の業務予定について（質疑応答）】

(伊藤教育長)

それでは次に入ります。「令和2年度第1四半期の主な事業予定について」委員の皆さんから何かご質問ございませんか。

(築瀬委員)

いつもこの時期にお聞きしていますが、教育指導課担当の5ページ「マイブック推進事業」についてです。今年度で7年目になる事業かと思えますけれども、様々な努力によって、とても浸透してきているなと実感しています。昨年度も関係機関や各書店との連携がかなり深まってきておりますし、全体的に言うと、この事業が参加型から攻めの姿勢での事業推進が図られており、とても嬉しく思っているところです。無理なく地道にやるということを中心に、今後も積極的に取組を進めていただきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

質問になります。今年度のマイブック推進事業の中で、これまでと違った取組内容や、今年度はこういうところに力を入れていきたいということがあれば、簡単にでもよろしいので教えていただければと思います。

(南館教育指導課長)

築瀬委員がおっしゃるとおり、マイブック推進事業は今年で7年目となります。今の小学校6年生が1年生のときには、すでにマイブッククーポンを手にしており、だいぶ小学生、保護者にも浸透してきてい

ると感じています。質問のあった新しい取組や重点については、昨年度から変更した点、二点説明させていただきます。

一点目は、県立特別支援学校在籍児童のクーポンの使用についてです。市立小学校在籍児童のクーポン使用率は、昨年度、過去最高の97.8%でした。一方、特別支援学校在籍児童のクーポン使用率は83.2%でありました。特別支援学校在籍児童の実態や家庭の事情から、なかなか外へ出かけるのが難しいのではないかと考え、今年度は特別支援学校に限り、先生が児童から希望をとって、学校が取りまとめのうえ、書店に注文するということが可能にいたしました。

二点目ですが、昨年度もポスターを作成いたしました。今年度は「ほんともだち」というテーマで作成いたしました。また、子どもが自ら関わられるように、「ポスターをみてくれたきみへ」というワークシートも作成することとしました。ワークシートの中には、子どもたちが「ほんとお〇〇」ということを考えて書けるような部分を作り、「ほんともだち」、「ほんといらめっこ」、「ほんとおおう」など書いてもらえるよう、子どもの遊び心を喚起するような工夫をいたしました。さらに、その部分を切り取って、ポスターの周りに貼るような工夫もしておりますので、ブッククーポンを使うだけではなく、読書に親しむきっかけづくりになればと考えています。以上です。

(築瀬委員)

分かりました。事業の特徴を聞いて、参加型ではなく、より積極的な事業としての工夫がされているなと思います。さらに心強く思いました。ブッククーポンを使う、使わないという利用率ということもありますが、その根底にある本に親しむというところを重点にして、ポスターやワークシートを活用している点についても、面白いアイデアで感心して聞いていました。子どもたちは、よく授業のグループワークなどで付せんを貼る作業をやっていますので、学校の教育活動が活かされるというか、親しみやすい作業なのかなと思います。本当にいいなと思います。無理なく進めていただければと思います。

(伊藤教育長)

そのほか、委員の皆さんから質問等ありますでしょうか。

(武輪委員)

同じく5ページの「学校図書館支援事業」について、感想を述べさせていただきます。こちらの学校司書に関しては、多くの学校に派遣され、学校図書館や学校の本に関わってほしいと思っております。今年度より2名増員ということであり、とても嬉しく思っております。早く学校が再開され、学校司書の活動によって、本が子どもたちにとってより身近になり、さらに今のお話にもありましたように「ほんともだち」になれるようにと思いますので、心から学校の再開を望んでいます。嬉しい話をありがとうございました。

(伊藤教育長)

そのほか、委員の皆さんから質問等ありますでしょうか。

〔なし〕

それでは、次に移りたいと思います。「史跡根城跡第2次整備基本計画の概要について」事務局からの説明をお願いいたします。

【史跡根城跡第2次整備基本計画の概要について】

(小保内 博物館長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの報告につきまして、ご意見・ご質問などがありましたらお願いします。

〔質疑なし〕

そのほか、事務局から報告事項はありますか。

〔なし〕

事務局からは以上のようなようです。

それでは最後に「その他」ですが、委員の皆様方から何かございますか。

(大庭委員)

今回の新型コロナウイルス感染症対策のための休校措置等に対して、少し話をさせていただきます。

まず一点目は、この長期にわたる休校措置に対して、子どもたちや保護者の方々におかれましては、様々な家庭の事情があるかとは思いますが、辛抱強く協力していただき、その対応に感謝しております。

子どもたちにとっては、日常的な生活であった「友達と一緒に遊べる、学べる、給食を食べる」といった生活が、突然、非日常の生活に落とし込まれると、幼いながらも、様々な不安を感じているのではないかなと思います。学校が再開した場合においては、子どもたちの心に大切に寄り添っていただいて、子どもたちにはちょっと難しいかもしれませんが、日常生活のありがたさといいますか、学校生活のありがたさ、その辺についても子どもたちに教えていただければと思っています。

一方、長期化することによって生活が不規則になり、なかなか登校できなくなる生徒が出る可能性もあると思います。その辺は十分考慮されていると思いますが、そういう不登校等につながる生徒が出てきた場合には、丁寧に対応をお願いします。

二点目は、今後、さらに学校の休校措置が長引く場合の対応についてです。現在、パソコンやスマホといった通信機器を使っただけのオンライン授業が可能かどうかといったアンケートを行っているようですが、実際に運用するとなった場合は、家庭でのインターネット環境の状況による教育格差が生まれないように配慮していただきたいと思います。また、機器や環境が揃ったとしても、小学生、中学生にとっては、一人で機械と向き合って勉強する、あるいは集中するというのはなかなか難しいかと思っています。どういう形でのオンライン学習になるのか分かりませんが、双方向で発信できるというのであれば、そこについては少し解消されるのかなと思います。

一つの具体的な例として、十何年も前になりますが、高校生での話になります。私は以前に、ある大手の東京の予備校を見学したことがございます。これは教育という観点よりも、むしろ受験技術のノウハウであったり、レベルや指導内容といったことを見学する目的でした。そこにはとても大きい部屋があり、

壁一面がテレビ画面になっていて、どの講師がどういう授業内容をしているか一目瞭然だったのです。テレビ設置の理由を聞きますと、授業内容も見ていますが、生徒の増減を見ているとおっしゃっていました。生徒の減っていく先生や増えていく先生、その先生の授業のやり方を見ていますと。ビデオだけを使っている授業は、誰が見ても同じ内容の授業を受けることができます。ところが、そこでは、受験を意識している生徒のクラスだったのですが、ビデオだけの授業ではどんどん生徒が減っていくとのことでした。高校生レベルでもそういうことが起きますので、やはり小学生、中学生の場合は、一方向からの通信だけの学習は難しいのではないかと心配しています。その辺のことも配慮しながら進めていただければと思います。

すみません。もう一点だけ述べさせていただきます。これはニュース等でご覧になった方もあるかもしれませんが。愛知県に、クルーズ船の新型コロナウイルス感染者を受け入れた藤田医科大学の岡崎医療センターというところがあります。そのセンターのすぐそばに岡崎小学校があるのですが、その小学校は他の学校の子どもから「コロナ小学校」というふうに揶揄され、誹謗中傷されました。しかし、そういう環境の中でも、4年生から6年生までの子どもたちが、病院に入院している方や医療関係者に対して、絵や励ましの言葉を送ったとのことでした。誹謗中傷を受けた子どもたちの気持ちは想像に難くありませんが、そういう行動をとってくれた子どもたち、あるいは学校関係者、本当に素晴らしいなと感じています。子どもたちが苦しんでいる大人を助けてくれるといえますか、大人たちに教えてくれる、そういうことを感じた場面でした。激励を受けた方々は、その子どもたちに感謝の気持ちを伝えたいということで、卒業式の際に玄関から出てくる卒業生たちに花を1本ずつ手渡しする光景もあったとのこと、岡崎小学校では十分な卒業式ができなかったと思いますが、大変すばらしいと感じました。

東日本大震災のときもそうでしたけれども、中学生や高校生が義務的ではなく、自発的に避難所や地域活動に係っていました。子どもたちには、そのような活動の中で人々を励まし、動かす力があるように思いますので、今回のこの新型コロナウイルス騒動でも、人と人との関係を作っていくことが大切であり、そういうことが教育の力になると信じております。

(伊藤教育長)

ありがとうございました。そのほか何かございませんか。

(油川委員)

私からも新型コロナウイルス感染拡大防止策についてです。このことに関しまして、伊藤教育長をはじめ、教育委員会事務局、学校現場の皆様におかれましては、児童生徒の健康を守るために全力を尽くされていることと思います。命を守ることを最優先にしながら、学びを保障するという大変難しい課題に取り組まれており、心労が絶えないことと思いますが、「こんなこともできるようになった」「こんなことも戻った」という、子どもたちの楽しい会話が飛び交う日を目指して、一緒に乗り越えていくことができたらと思っています。大変苦慮されていることと思いますが、どうぞお体にお気をつけて、ご対応の方をよろしく願いいたします。

(伊藤教育長)

ありがとうございました。その他ございませんか。

[なし]

5月6日までの学校休業については、子どもたち、保護者、それから教員も大変心を痛めていると思います。こればかりは国難と言いますか、八戸市だけではなく、世界中の方々が大変苦しんでおり、医師や看護師の医療従事者は、命を賭して患者と向き合い、対応していただいておりますが、そのような中でも、多くの人たちが亡くなっております。ワクチンなどが1日も早くできれば、たくさんの方が救われる病気になるだろうと思いますが、まさに千年に一度の事態と言っても過言ではなく、これから先が全く見えない状況であります。教育長としても、5月7日に再開したいという思いは誰よりも強く持っていますが、国の状況を見ながら、専門家の意見を十分聞きながら判断する必要があると思います。

まずは、お預かりする子どもたちがとにかく感染しないように、そして、子どもたちに指導する教員たちが感染しないようにしなければなりません。校長会にも話をしているのですが、最近は「行動変容」という言葉がよく出てきます。自分たちの行動をよく考えながら、我慢するところは我慢しなければなりません。子どもの行動を制限して困らせようと思っているのではなく、いかにして感染防止を防ぐかを考えて、皆さん苦しみながら決断をされています。八戸市としては新たな感染者が出ていませんので、これが連休明けの5月6日まで続いてくれることを願っております。

閉 会

これもちまして令和2年4月教育委員会を終了いたします。お疲れ様でした。

(午後4時23分閉会)